

磐田市
指定史跡

社山城跡

やし
ろ

や
ま

じ
よ
う

あ
と

社山の歴史と構造

磐田原台地の北に位置する標高 136mの独立丘陵上に築かれた山城が社山城です。西を流れる天竜川によって形成された段丘が自然の要害となり、本曲輪からの眺望は開け、西は浜松方面、北は二俣方面を一望できます。城跡の南側を抜ける街道は、森を通り袋井・掛川へと続く重要街道であり、西側街道は二俣から国府所在地見付へと続いています。両街道を見下ろす社山城は、交通の要衝を押さえる地でした。

城の創築は、記録が残らずはっきりとしません。『宗長日記』によれば、文亀の頃(1501～03)に起こった遠江をめぐる斯波・今川両氏の抗争時、斯波義雄が城に立てこもったが、今川氏によって二俣城に追われたとされています。元亀3年(1572)には、武田信玄が合代島へ陣をしいたことが知られ、社山城を含めた周辺一帯が二俣城攻めの拠点となりました。翌、天正元年(1573)になると、武田勝頼が遠江に侵攻、社山を抜け袋井へ陣を張ったといわれています。同年、徳川家康が社山城に砦を構え、武田方となった二俣城に備えることとなります。この年を最後に、社山城に関する記録は途絶えてしまいます。



社山城跡全景

社山城跡の城砦としての名残が残る地形をご紹介します



① 本曲輪跡

城の中心となる曲輪で、総大将や重臣たちが入る場所になります。南北に長い形をしています。



② 二の曲輪跡

本曲輪を補完する曲輪で、武器や食料などの倉庫が建てられていたと考えられます。東西方向に長い曲輪です。



③ 本曲輪北下横堀

北側の斜面を上がってくる敵兵に備えて造られました。東側の縦堀に連なり、北側尾根筋を完全に遮断しています。



④ 本曲輪北東下縦堀

横堀から続く一連の堀です。東側斜面からの侵入を防ぐ堀です。



⑦ 本曲輪西下横堀

西側からの敵の侵入を阻むための施設です。城内で最も長い横堀で、本曲輪を守っていました。



⑤ 二の曲輪西側土塁

二の曲輪の西側を守る胸壁です。この陰に隠れて、鉄砲や弓をはなちました。



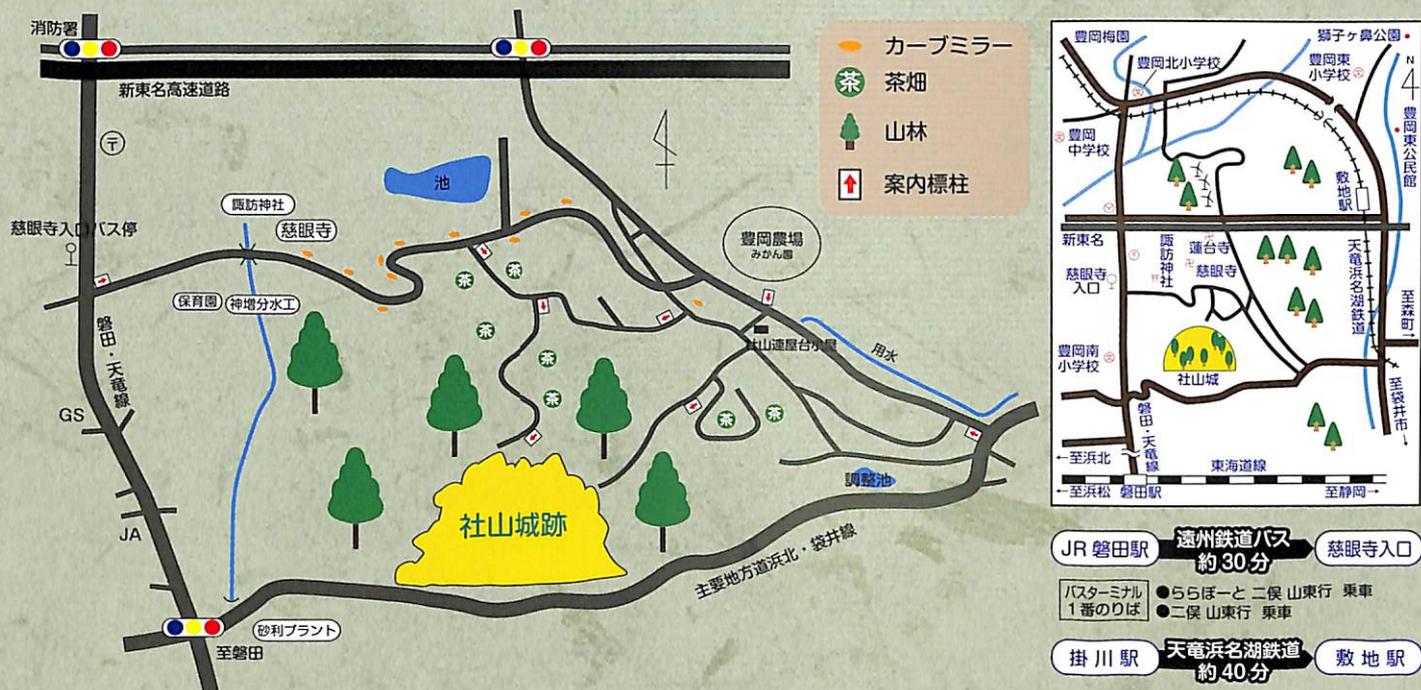
⑥ 本曲輪と二の曲輪間の堀切

本曲輪と二の曲輪を遮断し、互いに独立して機能することをねらって造られた堀です。



城は、南北約70m×東西約25mの山頂本曲輪と、幅約10mの堀切を挟んで東に連なるほぼ同規模の二の曲輪が中心で、その他多くの小曲輪が、尾根上や斜面に設けられていました。本曲輪北下から西を廻って南下まで横堀が連なり(崖地形によって分断されている)、尾根筋には二重堀切を含め、いくつもの堀切を配した嚴重な構えとなっています。

城の構造から、元亀年間から天正年間に、武田もしくは徳川の手によって大改修を受けたと考えられます。



用語解説

● 曲輪(くるわ)

機能や役割に応じて区画された一区域で、人工的に削平された平地。

● 堀切(ほりきり)

尾根筋からの侵入を防ぐために、尾根筋に対して直角に切り取った空堀。

● 土塁(どるい)

土を盛って造った土手。壁のように、削り残して造る場合もある。防御壁として利用された。

● 豎堀(たてぼり)

敵兵が斜面を移動するのを防ぐために、斜面に沿って(等高線に対し直角)上下に掘られた空堀。

● 横堀(よこぼり)

斜面から登って来る敵を防ぐために、等高線に平行に掘られた堀。前面に土塁が構えられる場合が多い。

● 土橋(どぼし)

通路として利用するために削り残された平坦面。通常一間幅程度である。